

とじこじ



2016年4月(12号) 発行: 藤里町地域おこし協力隊

毎度おなじみ……になってきたでしょうか!? 地域おこし協力隊の藤原菜奈です。「愛知県」出身の私が藤里町に来て早1年、これは伝えておきたいと思うことがあります。す。「みかんが有名な四国の県は……愛媛です」! 愛知とは漢字がひとつ一緒ですが別物ですので、どうぞお見知りおきを。さて、先日オープンしました新しい「かもや堂」(誤解のありませんよう、食堂ではありません)。そこで、「プチ在藤愛知会」(勝手に名付けました。ゴロが悪い)が開かれました。愛知県出身で嫁いで20年以上というおかあさまが、私の話を聞きつけて「かもや堂」を訪ねてくださったのです。しかも、わざわざこのあたりでは手に入らない「すがきや」(名古屋のソウルフー

ドともいえるチェーン店)のラーメン(しかも生麺!)までお裾分けをいただいで、地元トークに花が咲く……。出身が同じ県だというだけで、年も離れた初対面の方にも親近感がわくのは、どうしてなのでしょうね。言葉は簡単には変わらないのか、おかあさまに残る言葉の訛りも懐かし、しかも名前がうちの亡きおばあちゃんと同じという偶然。「在藤愛知会」に集う皆さまも、藤里の「ここにしかない」ものを記憶や言葉の中に共有していることで、同郷の士というもおおげさですが、懐かし、うれしく思うのかなと考えたのです。

ひとつのつながりのできる場所。

目次

- オープンした「KAMOYADO」
- 聞き書き 白土延子さん
- 在京藤里会



オープニング・イベントで、とじこじの聞き書きトークも開催しました。

え!? イチノコメに!?
NEWオープンのかもや堂
(食堂じゃないよ)で、
プチ在藤愛知会開催!

※イチノコメニ: いつの間にか。「いつの小間に」がなまったと言われる藤里の言葉。口語のため表記は微妙。



在京藤里会 2016

まちを離れて云十年、ふるさとへの思いはあつく

3月27日に、東京・市ヶ谷の在京藤里会に約300名が集いました。駒踊りや高山太鼓、物販コーナーも大盛況。同級生同士でテーブルを囲み、再会をたのしまれていました。

おふくろは荒町でサンキュウ食堂やった。2年に1回は藤里行ってるよ。絆・つながりのある、暮らしやすい町だっってどどんPRしてほしいな。



S17年生

『とんじこんじ』に載ってる守一さんに似てるでしょ!?(弟です!)



S24年生

この年になると安否確認だなあ。大沢出身で、壮士舞いのおはやしは耳に残ってるよ。

元気でやっています!



S13年生

東京・上野で、ふぐ料理「きくち」やっています。細田薫さんとは、姉さんが同級生なんだ!



そのうちまた帰ります!
どぶろく用意して待ってて~



S33年生

町長のfacebook見てるから、地域おこし協力隊の活動も知ってるよ。元気で頑張って、人口増やしましょう!



S25年生

とんじこんじ抄

新しい始まりが4月となったのは明治18年というから、案外古い気がしない。この春、とじこじ紙面アドバイザーを努めてくださったソトコト編集部井口さんが新天地で新たな挑戦をされる。どう伝えるか。編集の力、そして地方の可能性を教えていただいた。エイプリルには開くという意味もあるそうだ。叩けばさらば開かれん。(シヤケ)



久々の東京で、手に乗せてされる「ふくろうカフェ」を満喫してきました。(藤原)

聞き書き
第12回

しらと のぶこさん
昭和26年(1951年)東京都生まれ。
人材派遣会社を経て、「ホテルゆとりあ藤里」支配人。地域行事への協力、社会福祉協議会のマナー講師、ブライダルアドバイザーなども務める。



白土ワールドへようこそ！

ホテルゆとりあ藤里 白土延子さん(湯の沢)

東京の少女と「釜石」

産まれは東京、四人姉妹の次女です。父は社長をしていて、不自由のない暮らしだった。でもお婆さんに子どもができて、母は我慢できなくて、いちばん上と下の娘2人を連れて、出身地の岩手に戻ったの。私は7歳で、東京で継母とも折り合いが悪くて、人間不信になって、人前で声が出せなくなりました。すっかり不安定な子どもになってしまつて、中学2年の時、釜石の母の元に行ったの。

釜石での暮らしはもう壮絶よ。母は遠野の名家の娘だったそうだけど、実家に戻ったら、祖母に「その間に身投げして死ぬ」って。それで女学校時代の友達を頼りに釜石に行つて、漁師の作業小屋に住まわせてもらつた。流れて来るワカメや昆布を拾つて売つたり、ヨイトマケもやつたつて聞いた。母はとにかく、黙々と働く人だった。働いたお金を集めて、夜と明日の朝のお米買う生活。でもお母さんと一緒にいるってだけで、こんなに素晴らしいって思った。私も一生懸命昆布も拾つたし、浜にカモメを見つけては、ピチピチしているイワシを弁当箱に詰めて喜んで帰つたよ。

母の教えとキャリアウーマン

高校入学で、父に東京に連れ戻されたのだけれど、その時、母に言われたんだ。「男の人に頼らなくても、自分で稼いで生きていける人にならないとだめだよ。男には負けるな、女の人には優しくね」って。それを今までもずつと実践している。釜石の母はそれ以前に、姉と妹は震災の津波で亡くなったけど、釜石の2年は人生の最高の宝だと思つてる。

大学卒業後は浜松で就職して、経営コンサルティングの会社の人材派遣部門で社員指導をしていた。バリバリ仕事を、母のためにも金儲けしようと思つて(笑)。24時間仕事のことを考えて、飛び回つた。もう死のうと思つたことも、本当にいろんなことがあつた。でも逆境で、自分を知れたこと、自分で自分を奮い起こせるようになったのは、よかつたと思う。



お客さんと談笑。リピーターのお客さんには白土さんファンも多い。

ホテルゆとりあ藤里

平成6年(1994年)にホテルができて、元々はスタッフを派遣してたの。その後自分も手伝うことになつて、2代目の支配人になつた。偉そうに、この町をどうするつもりだ！って、それはバッシングも浴びた。女性従業員にも嫌われてるっていうのは正直ショックだった。でも、「白土ワールドへようこそ！」って。「私を毛嫌いしてる人たちも、まっとうに働いて、何年かかってもいつか好きにさせてやる〜！」と誓つたの(笑)。

お客さんにも最初は、「白神山地、いいところですよ〜」って、口だけだ言つた。でも、自分も見ておこうと思つて、岳岱に行つて、400年ブナの前に立ったら、漫画みたいに、涙がぼたぼた落ちて。それなりに苦労してきた気もしていたけど、自分ですごいちっぽけだなんて。それからここに、はまってるの。多くの人に、私みたいにブナの木に会つて、何か感じてほしい。白神山地に来て、明日からまた頑張れるって思つてほしいな。

土下、食つてらが、寝てらが〜」って。そんなふう気軽に声かけてくれるの大好き。いつも食べてなさそうだって、いろんなものを届けてくれる人たちもいる。みんなが面倒みてくれなかつたら、今頃がりがりになつて死んでるかも。

他のエネルギー源は、白いご飯と白神山水とがっこのがっこの飯！ 学生時代の辛い時、お芝居の女優さんが一人舞台で、そんなご飯をかきこむシーンあつたの。水かけて食べようとすると、みんなに「は〜!?」って笑われる(笑)。でももらった漬物出して、泣きながらご飯食べると、明日からもがんばるって思えるんだ。

藤里町には、あとのどのくらいいられるかわからない。22年間、藤里町にお世話になつて、その感謝の気持ちを、どうお返しできるだろうって、毎日考へてる。まだ自分の人生行きついてない。ゆとりあをみんなが就職したいと思えるブランドにしたい。退職するまでは、まだ「藤里町ゆとりあ」編なんだから。(聞き手・布川)



咲羊祭り。家内安全のお札を配る。

石橋談議



町も久々に活気づいたものの町議選も終り、またひっそりとしている。選挙結果は現職二人が落選し、元職二氏と新人が当選した。しかも、最下位と次点が同数でガラガラポン回しの抽選となつた。珍事で有名な津軽選挙にも似た現象だが、これも公職選挙法に歴として定められている抽選方式だそうだ▼さて、ここ数回の町議員選挙をみると、トップ当選者は次回で落選したり、前回の落選者がトップ

町も久々に活気づいたものの町議選も終り、またひっそりとしている。選挙結果は現職二人が落選し、元職二氏と新人が当選した。しかも、最下位と次点が同数でガラガラポン回しの抽選となつた。珍事で有名な津軽選挙にも似た現象だが、これも公職選挙法に歴として定められている抽選方式だそうだ▼さて、ここ数回の町議員選挙をみると、トップ当選者は次回で落選したり、前回の落選者がトップ

当選したり、その動きの激しさに有権者たちも戸惑い、予想できない結果となつている▼その原因は多岐にわたるだろうが、一部有権者の声では藤里町民の気質とか優しさが多分に影響しているという。前回最下位だったり、苦杯を嘗めた候補者に対しては「今回は絶対落されない」という同情心が十分に反映されているようで、小さい町であればこそ候補者の顔がよくみえるからだろう▼昨年、筆者は各集落をまわる機会があつた。山間地でありながら大型農業に真剣に取り組む繋ぎ服の某議員が脱穀作業に汗して走りまわっていた。「これぞ町づくりの先導者」と感激したが、汗する姿は美しい町づくりや家業に体当たりしている姿勢は尊い。これからの四年間、各議員の活動をじっくりとみて、珍事などない堂々とした選挙をみてみたい。(福)

感謝の気持ちと「ご飯?」

この町の中で、白土って呼び捨てにしてくれる人が何人かいるの。「白